

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

大山 バク 医師

おおやま

総合大雄会病院 呼吸器内科

【主な資格】

- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本アレルギー学会
アレルギー専門医
- ・医学博士



患者さんと共に、より良い『医療』を

呼吸器内科医師 **大山 バク**

普段はどんな診療をしているんですか？

みなさんは、呼吸器内科と聞くとどんなイメージがわくでしょうか？悔しいですが、漫画や映画などの題材にあまりなつた事が無いため、ぱっと思いつかないかもしれません。風邪をひいた後の『長引く咳』や『息切れ』といった症状から、レントゲンでみつかった『肺炎』や『肺がん』など、様々な幅広い症状や病気を診察させていただくのが私たち呼吸器内科です。

息切れや咳がでるものと、喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎という肺が固くなってきてしまう病気などがあります。特に喘息は約15人に1人はかかるといわれており、隠れ喘息の人も多くいらっしゃいます。肺がんに関しても、近年では日本で年間12万人以上の方が新たに診断されている状況です。個別化治療も進んできており、**その人に合った各々の治療**が求められる時代になってきていますので、そういったニーズにお応えし、一緒により良い治療を考えていく事を目指しています。

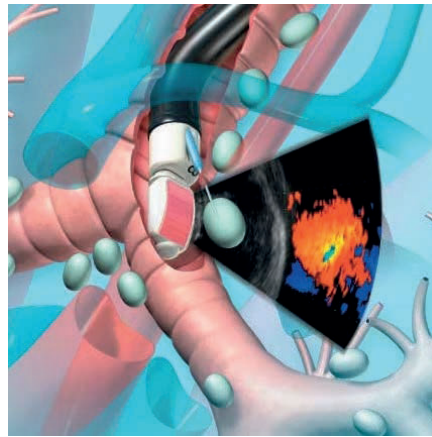
呼吸器内科では色々な病気を診るんですね？

先ほどお話ししたような病気で肺が悪い患者さんもしらっしゃれば、大元は肺の病気ではないのにも関わらず肺に障害がでる病気(免疫の病気など)もあります。患者さんの症状を聞きつつ“隠れている病気が何なのか？”を診察で探していくのも、私達の大切な仕事になります。そのため、血液検査や肺活量検査、CT検査など様々な検査を駆使するわけですが、ことさら特殊なのは気管支鏡検査(肺のカメラ)になります。あまり馴染みが無いですよ？初めて聞く方もいらっしゃると思います。

直径約6mm



これが実寸大のカメラになります。肺の中に口からカメラが入りますので専門性の高い検査になりますね。がんの診断や間質性肺炎といった病気の診断をつけるために、カメラの先からブラシを出してこすったり、ハサミのような鉗子を出して腫瘍の一部や肺の一部を採取します。



(左) 日本呼吸器内視鏡学会から抜粋
(右) カメラの先端から針が出て穿刺を行う検査も (オリンパス株式会社から抜粋)

今まで年間約150件程度は施行させていただいておりますが、苦痛の少ない検査ができていると自負しております。当院には私だけでなく、経験豊富な医師が多数在籍していますので、安心して検査を受けていただければと思います。

大雄会の呼吸器内科のアピールポイントは何ですか？

ここは大事なところですね！私たち呼吸器内科医や呼吸器外科の医師も含めると、総勢12名の大所帯となり、江南、一宮、稲沢、岐阜羽島エリアで最も『肺のお医者さん』が多くなりました。呼吸器内科ってメジャーな割には専門医も少なく、常勤の医師がいる病院も多くないです。僕も地方の病院に週1回手伝いに行ったりしていました。肺の病気は診断から治療までを当院のみで完結できますので、安心して患者さんにも受診してもらえ環境が整っていると思います。

最後に一言、メッセージをお願いします。

呼吸器内科の疾患は『内科』とつくだけあり、患者さんが人生の中でずっと付き合っていかなければならない疾患も多々あります。治療の必要はなく悪化がないか経過を見ていけば良い疾患もありますし、すぐに治療をしなければいけない疾患もあります。そのうえで大切なのは、患者さんとよく相談して患者さん自身が納得して検査・治療をすすめていく事になります。私たち医師の役割は患者さんの意向をくみつつ、どうしたら患者さんにより良いのかを一緒に考えていく事と思っています。『お医者さんに相談するほどでも…』と思われず、呼吸器・アレルギーの事だけでなく、気軽に色々相談していただければ幸いです。



先生の事をもっと知りたい！

● 医師を志した理由を教えてください。

元々神道や地域の神社が好きだったので、民俗学を研究したかったのが正直なところですね(笑)。ですが、曾祖父が軍医をやっており、祖父のころから一宮に来て僕で4代目。地域の方々にお世話になっており絶やすわけにもいかないなど。祖父は非常におしゃれで、患者さんにどうしたらより良い事ができるかを常に考えているカッコいい人でした。そう在りたいと思ったのも一つですね。

● 診察の際や医師として大切にしている事を教えてください。

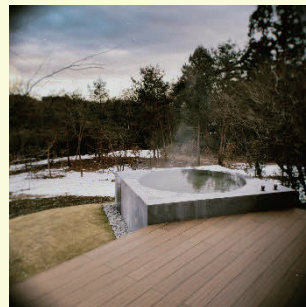
1にも2にも『会話』だと考えています。自分は子供の頃から『納得』がいかないと従わない性格でした。医療の主体は患者さんであり、その患者さんが納得していない治療はいくら最先端でもその人にとっての良い治療ではないわけです。医師は色々知識はありますがあくまでアドバイザーだと思っていますので、一緒にその患者さんに合ったより良い治療を考えていければと思っています。

● なぜ呼吸器内科を専攻したのか教えてください。

これはもう本当にお恥ずかしい話ですが、お世話になった先生方の勧誘ですね。先ほどお話ししたように、地域の患者さんの役に立てれば自分としては何科でもよかったのもあり迷っていました。美味しいものを頂く場に沢山連れて行っていただいたあとに肩を叩かれ、外堀から埋まっていましたね。もちろん研修の時に好きな科でもありましたが、入局して勉強し患者さんに接していくうちに呼吸器内科医として人の役に立っている実感があり、今では感謝しています。

● 休みの日の過ごし方を教えてください。

居酒屋さんをふらふらしたりして、食べたり呑んだりしています。温泉も好きなので、御縁があった福島の温泉にもよく行っていました。これを読んでいる患者さんがいらっしゃいましたら是非オススメの温泉を教えてください。



詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

